

**2021年度
一般社団法人 CIEC 定時社員総会
議 案 書**

**2021年8月20日(金)
大学生協杉並会館
(〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22)**

【2021年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 議案】

第1号議案:2020年度事業報告と2021年度事業計画承認の件	3
第2号議案:2020年度決算報告承認の件	
・財政報告	6
・貸借対照表	8
・損益計算書	9
・計算書類の注記表	10
・附属明細書	11
・監査報告書	12
第3号議案:2020年度収支差額処分承認の件	13
第4号議案:2021年度予算承認の件	14

【資料】

資料1. 2020年度活動報告と2021年度活動方針	17
・専門委員会	
・部会	
・支部	
資料2. CIEC 活動報告	26

2021年度一般社団法人CIEC定時社員総会議案書

議案1. 2020年度事業報告と2021年度事業計画承認の件

1996年7月に設立されたCIECは、2013年6月から一般社団法人CIECとして、設立以来の目的を引き継ぎながらこの8年間活動してきました。本議案では、2020年度の事業報告と2021年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会等の活動報告は、それぞれの委員会や部会報告等にゆだね、ここでは全体に関わる2020年度の取り組みの要点と2021年度事業方針について記します。

1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIECは1996年7月にコンピュータ利用教育協議会として設立され、2013年6月に一般社団法人CIECとなり、教育と学びにおけるコンピュータおよびネットワークの利用のあり方等を研究し、その成果を広く普及するとともに交流する活動を続けてまいりました。

「未来の教室」実証事業における、「学びのSTEAM化」、「学びの個別最適化」、さらに「1人1台端末」環境の創出としてのGIGAスクール構想など、近年の学校教育を取り巻く状況は大きく動いており、昨年来の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、オンライン授業の必要性が高まったことを背景に、その動きは加速されつつあります。学習指導要領の改訂も進み、2025年の共通テストでは新科目「情報」の追加が決まっており、論理的思考能力としてのプログラミングやデータ分析力が問われています。これを受けて、大学教育においてはデジタル社会を牽引していくことのできる人材を育てていくことが望まれています。

CIECは、長年取り組んできたICTを活用した学びから得られた成果を社会に発信していくとともに、新しい情報技術とコミュニケーションの在り方を問い続けてきましたが、教育現場におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)が加速する今こそ、CIECのミッション、ビジョンを再定義し、新しい一歩を踏み出していく時期に来ていると考えられます。そこで2021年度は、委員会、部会、支部の連携を強化し、活動を活発化させることで、ICTを活用した学びに関わる情報交換・情報発信の場としてのCIECの魅力をアピールしていきます。また、昨年の社員総会で決めた方針にもとづき検討ワーキングをつくり、メンバーコメント等を実施して、6月理事会で「教育改革のパイオニア」としてのCIECを再定義する「CIEC中期活動計画」を決定しましたが、今年度はその中でとりあげられた諸課題を一つひとつ検討して具体化してまいります。

2. PCカンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2020PCカンファレンス」は、COVID-19感染拡大を受け、2020年8月18日、19日、20日に同志社大学を開催担当校として、全国大学生生活協同組合連合会との共催のもと、333名の参加でオンラインにより開催されました。未来を担う人づくりのためには、これまでにない産業界と大学等学校が協力・共同して、新たな教育プログラムや教材、学習環境を開発・提供することが求められることから、全体テーマを「産学共同で切り開くこれからの教育・学習」としました。産学共同による教育・学習の重要性は従来から指摘されていましたが、本PCCにおいて紹介された、先進的かつ成功した事例は、今後の産学共同による教育、研究に大きな示唆を与えるものとなりました。

プレカンファレンス「VRに惑わされない『ひきこもり教育・学習を加速する』バーチャル空間の使い方」に続き、基調講演1「データサイエンス教育における産学共同研究」、基調講演2「産学共同から生まれる新しい教育の挑戦とその課題」を踏まえ、シンポジウム1「産学共同による教育実践の課題とその解決法」が行われました。コロナ禍の中、小中高校がどのように動いたかの検証と、これからのオンライン学習・教材について議論するシンポジウム2「検証『新型コロナ』休校！ そのとき学校はどう動いたかー新たな学びの場の構築と充実ー」を開催しました。分科会では、ポスター発表をとりやめ、

87本の口頭発表がありました。

「2021PCカンファレンス」は、COVID-19感染拡大を防ぎ皆様の安全を考慮し全面オンラインに移行し、8月20～23日に開催します。全体テーマは、「ニューノーマル時代の教育・学習」です。COVID-19の世界的拡大（パンデミック）は明らかに人類にとって脅威ではありますが、この脅威から学ぶべきであるという意味から「ニューノーマル（新常態）」という提起がされています。私たちは、今までの考え方ややり方を大きく変える必要があるでしょうし、まさにこれまでの「ノーマル」、常識、正しいとされていたあり方というものが否定され、新たな常識というものを生み出し移行することが求められています。このことはもちろん教育・学習領域にも適用されます。このようなことから設定されたのが、今年の全体テーマです。

この一年、私たちはオンライン教育に向き合い、学生・生徒とともに試行錯誤しながら、効果的かつ効率的な教育・学習について模索してきましたが、このことが、改めて教育とは何かという本質に立ち返る機会にもなりました。2021PCカンファレンスが、教育の本質を捉えながら、参加者にとって、これからの教育・学習について展望する良い機会となることを期待しています。

3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の4つが理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自らCIEC研究会の企画実施を担当するとともに、各部会等が開催する研究会の調整・管理を行っており、今年度も研究大会として「CIEC春季カンファレンス」を開催し、「CIEC春季カンファレンス論文集 Vol. 12」を刊行しました。COVID-19感染拡大状況を考慮し、春季カンファレンスは、昨年に続き今年もオンラインでの開催となりましたが、小中高生（U-18）による口頭発表セッションを設ける新たな試みを実施しました。会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し、49号と50号を刊行しました。49号から、会誌編集に関わる作業の情報化を進めるために、かねてより準備を進めてきたオンライン投稿・査読システムを導入して編集作業が行われました。広報・ウェブ委員会はCIECの広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。また、2020年度は、研究会、カンファレンスなどのオンラインイベントの開催を積極的にサポートしました。国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて引き続き情報提供をすすめております。2020年度は、Web会議システムを活用し中国長春と日本を結んだ、CIECでは初めてとなる国際研究集会を開催しました。

部会は、会員の自発的な組織として始まり、小中高部会、2018年度より新たに誕生したオープン・エデュケーション部会、生協職員部会が研究活動を展開しています。小中高部会は関東、関西、北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめ、PCカンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、CIEC研究会を共催含め3回実施しました。また、新たな試みとして、小規模でインフォーマルな気軽に参加できる会としての「CIEC サタデーカフェ」の開催を開始しました。オープン・エデュケーション部会は、PCカンファレンスでのシンポジウム、小中高部会と共催の研究会を実施しました。しかし、諸般の事情より2021年度は解散いたします。生協職員部会は、学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当てPCカンファレンスでセミナーを企画開催しました。

支部はCIECの地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の2つが活動しております。北海道支部では、オンラインにより11月にPCカンファレンス北海道を開催しました。2021年度のPCカンファレンス北海道は、会期等未定ですが、オンラインによる開催を予定しております。九州支部では、COVID-19感染拡大への対応のため、九州PCカンファレンスの開催は中止しましたが、2021年度は、九州PCCを再開するとともに新しい形でのITフェアの実施を検討しています。

4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度 686 名(2021 年 4 月)となりました。近年は個人会員数が減少傾向にありますが、これに歯止めをかけるとともに 1000 名規模に達するよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PC カンファレンスや研究会等への未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また、団体会員は 76 団体(2021 年 4 月)であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設等、団体会員とのコラボレーションを追求します。

5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっております。会誌編集の進捗管理をオンラインで行う投稿審査システムを導入し、査読も確実に運営され、年 2 回の会誌発行を順調にすすめております。最新号を除く会誌は、J-STAGE で公開されており、最新号も発行の 6 か月後には公開されます。

また、Facebook、Twitter の CIEC 公式 SNS での情報発信を強化し、CIEC ホームページも内容も随時更新することにより、ニューズレターの他、各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

さらに、CIEC について社会に発信すること、多様な会員の研究・実践の広がりが見える化等のために開始した会長発信企画「会長インタビュー」は CIEC ホームページの「Special」でこれまで 8 本の掲載を行い、その一部は、YouTube の CIEC 公式チャンネル（一般社団法人 CIEC）において、動画配信を行っています。今後、さらに充実させていく予定です。

6. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も減少傾向が続いておりますが、特に COVID-19 感染拡大の影響による企業等の大幅な減収減益は、団体会員の動向にも、大きな影響を及ぼしつつあると考えられます。非常に困難な局面ではありますが、引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。

教育に関心のあるさまざまな個人や団体、企業に会員になってもらい、CIEC の場を通じて学び、交流することで、個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進等で収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。

また、終身会員制度について、メンバーコメントの手続きを経て、永年会員への感謝と、学会活動への参加継続のため、終身会員制度を導入いたしました。

社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図り、CIEC の活動収支については厳密な運用管理と定期的会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。

日常的な CIEC 活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2021 年度においても引き続き、メールによるコミュニケーションから、Slack などの新しいコミュニケーションツールの活用をすすめ、法人としての効率的な事務局活動を進めます。

以上

CIEC2020 年度財政報告

〔概況〕

2020 年度決算は 947,071 円の黒字となりました。理事会や専門委員会等の会議費用が減少し、あわせて春季カンファレンスをはじめとした研究会や、支部活動援助金および部会活動援助金もオンラインでの活動が中心となり、経費が予算を大きく下回りました。会誌発行費用はページ数増加により予算を上回りました。

また 2020PC カンファレンスの開催方法変更に際し、全国大学生生活協同組合連合会に対する「オンライン特別支援金」を 1,800,000 円予算化し、1,000,000 円を支払いました。

会費収益は個人会員数、団体会員の会費口数の減少により予算を下回りました。

(文中の金額は原則として 1 万円未満切り捨て、詳しくは損益計算書をご覧ください)

〔経常損益の部〕

I. 〔経常収益〕

1. 会費収益 1,005 万円／予算 1,160 万円

- ・ 個人会員会費収入は 385 万円で予算対比 44 万円の減 (-10%)、団体会員会費収入は 620 万円で予算対比 110 万円の減 (-15%) となりました。

＜会員状況＞	2020 年 4 月 1 日	2021 年 3 月 31 日	2021 年 4 月 1 日
個人会員	725	725	686
団体会員	77	76	76

2. 財務収益 211 円／予算 2 千円

- ・ 受取利息 211 円

II. 〔経常費用〕

1. 事業費用 536 万円／予算 886 万円

(1) 会議費用 36 万円／予算 135 万円

- ・ オンライン会議の開催で交通費が減少しました。

(2) 会誌発行費用 310 万円／予算 280 万円

- ・ Vol. 49、Vol. 50 を発行しました。ページ数増加により費用が増加しました。

(3) 広報費用 0 万円／予算 28 万円

(4) 研究会費用 27 万円／予算 70 万円

- ・ 春季カンファレンス及び第 123 回、124 回、125 回研究会を開催しました。
- ・ 春季カンファレンス研究会論文集は PDF 版のみ発行し、印刷費用を削減しました。

(5) 調査費 4 万円／予算 5 万円

- ・ 北海道支部により教科「情報」の調査が行われ、その結果は PCC 北海道で発表されたほか、協力各大学で有効活用されています。

(6) 事業活動費用 6 万円／予算 27 万円

- ・ 電子証明書費用です。
- ・ 三役会議費用は理事会開催時の開催とオンライン開催のため計上されていません。

(7) 支部活動援助金 43 万円／予算 61 万円

- ・ 北海道支部 25 万円、九州支部 18 万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されています。

(8) 部会活動援助金 3万円／予算 97万円

- ・ 小中高部会3万円、生協職員部会とオープン・エデュケーション研究部会の支出はありませんでした。3部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(9) 学会表彰事業費 3万円／予算 3万円

- ・ 2020年度は学会論文賞1件の実績です。

(10) 教育出版費用 0万円／予算 0万円

(11) 周年事業費用 0万円／予算 0万円

(12) オンライン特別支援金 100万円／180万円

- ・ 2020PCカンファレンスの開催方法を変更するにあたって、全国大学生生活協同組合連合会に対する支援金を予算計上しました。

2. 管理費用 374万円／予算 454万円

(1) ネットワーク運営費 5万円／予算 15万円

- ・ 保守管理業者委託費、サーバー更新料、ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジストリーサービス)の費用です。

(2) 事務局通信費 21万円／予算 25万円

(3) 事務局業務委託費 300万円／予算 300万円

(4) 事務用品費 14万円／予算 38万円

(5) 備品購入費 0円／予算 30万円

(6) 管理委託費 9万円／予算 20万円

- ・ 登記費用、会計システム費用です。

(7) 雑費 23万円／予算 25万円

- ・ 個人情報取扱事業者保険料、書籍JANコード更新料、振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費 0円／予算 1万円

(9) 租税公課 500円／予算 2千円

〔経常外損益の部〕

III. 〔経常外収益〕

雑収入 40万円／予算 0円

- ・ 春季カンファレンス参加費と会誌の売上です。

IV. 〔法人税等〕

7万円／予算 7万円

- ・ 法人住民税7万円です。

V. 〔当期利益金〕

187万円の赤字予算に対し128万円の黒字となりました。

以上

計 算 書 類

第1 貸借対照表

貸 借 対 照 表 2021年6月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	19,667,617	流動負債	5,700,835
現金及び預金	19,650,358	未払金	60,835
未収金	17,259	前受金	5,640,000
		負債合計	5,700,835
		(純資産の部)	
		その他	13,966,782
		正味財産	13,966,782
		繰越利益剰余金	13,966,782
		純資産合計	13,966,782
資産合計	19,667,617	負債・純資産合計	19,667,617

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型
(改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第2 損益計算書

損 益 計 算 書

(自2020年7月1日 至2021年6月30日)

(単位: 円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	3,855,000	
2) 団体会員会費収入	6,200,000	
	10,055,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	211	
	211	10,055,211
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	365,877	
2) 会誌発行費用	3,104,693	
3) 研究会費用	272,185	
4) 調査費用	49,500	
5) 事業活動費用	66,044	
6) 支部活動援助金	438,639	
7) 部会活動援助金	37,685	
8) 学会表彰事業費用	30,000	
9) オンライン支援金	1,000,000	
	5,364,623	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	50,666	
2) 事務局通信費	218,297	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	146,025	
5) 管理委託費	95,498	
6) 雑費	232,531	
7) 租税公課	500	
	3,743,517	9,108,140
3 財務費用	0	
経常利益		947,071
(経常外損益の部)		
III 経常外収益		
1 雑収入	406,480	406,480
IV 経常外費用		
1 その他経常外費用	0	
IV 税引前当期純利益		1,353,551
V 法人税等	70,000	70,000
VI 当期純利益		1,283,551

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型(改訂版)」(2015年5月7日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第3 計算書類の注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

3. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかなっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金預金	19,650,358	19,650,358	-
資産計	19,650,358	19,650,358	-
③前受金	5,640,000	5,640,000	-
負債計	5,640,000	5,640,000	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1) 現金預金 (単位：円)

内 訳		金 額
現金		1,221,431
当座預金	ゆうちょ銀行	2,461,445
普通預金	りそな銀行	3,848,651
普通預金	中央労働金庫	2,118,831
定期預金	中央労働金庫	10,000,000
合 計		19,650,358

(2) 前受金

内 訳		金 額
次年度個人会員会費		2,820,000
次年度団体会員会費		2,820,000
合 計		5,640,000

2021年7月18日

監査報告

一般社団法人 CIEC（コンピューター利用教育学会）

監事 鳥居 隆司



監事 吉田 賢史



監事 柳田 章



第8期事業年度（2020年7月1日～2021年6月30日）の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務の執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録等を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について報告を受け、また、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- 1) 事業報告は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産および損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3. 追記情報

ありません。

以上

2020年度利益金処分案

I 当期末処分利益金	<u>13,966,782 円</u>
II 次年度繰越利益金	<u>13,966,782 円</u>

上記のとおり、2020年度利益金は次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 C I E C（コンピュータ利用教育学会）

会長理事 若林 靖永

2021 年度予算計画

I. [経常収益について] 1,050 万円

1. 会費収益 総額 1,050 万円

- ・個人会員会費収入は 400 万円の計画とし、会員の新規加入を促進しますが、PC カンファレンス会場での新規加入者分減少を見込んでいます。
- ・団体会員会費収入は会費減額会員もありますが、PC カンファレンスでの「教育・IT フェア」開催など新規加入の機会増を図り 650 万円の計画としています。

2. 財務収益

- ・受取利息で 2 千円を計上します。

II. [経常費用について] 1,050 万円

1. 事業費用 総額 610 万円

1) 会議費用 85 万円

- ・総会費用は 20 万円を計上します。
- ・理事会は 8 月、12 月、3 月、6 月の 4 回分をオンラインでの出席を前提とし、20 万円を計上しています。
- ・広報・ウェブ委員会はオンライン会議を前提とし、5 万円を計上します。引き続き各委員会、部会、支部の WEB 担当者の会議参加を呼びかけます。
- ・研究委員会は 10 万円を計上します。
- ・国際活動委員会は 5 万円を計上します。
- ・会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 10 万円を計上します。
- ・Zoom アカウント購入費用として 10 万円計上します。

2) 会誌発行費用 300 万円

- ・12 月の 51 号、6 月の 52 号発行費用として 300 万円を計上します。(取材・送料込)。
- ・JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用 5 万円を計上します。
- ・オンライン投稿システム費用として 30 万円計上します。内訳は 129,600 円(年間サポート料) + 160,000 円(利用料@4,000 円×40 本程度)です。

3) 広報費用 14 万円

- ・HP 構築運用費として 10 万円を計上します。
- ・2020 年度活動紹介のパネル作成費用として 4 万円を計上します。

4) 研究会費用 総額では 40 万円

- ・研究会費用は 1 回上限 15 万円です。
- ・春季カンファレンスのタイムキーパー採用費、論文賞賞金等を計上しています。

5) 調査費用 0 万円

- ・2021 年度は調査を行いません。

6) 事業活動費用 20 万円

- ・三役会議は 10 万円計上します。通常の 3 役会議は理事会、PCC 実行委員会と同日開催にし、臨時開催 1 回を計上します。
- ・事業委託費は 10 万円を計上します。

7) 支部活動援助金 61 万円

- ・支部活動を保障する予算を 61 万円計上します。北海道支部 25 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業(地域 PCC、研究会など)を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

8) 部会活動援助金 67 万円

- ・ 部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 67 万円計上します。小中高部会 60 万円、生協職員部会 7 万円です。

9) 学会表彰事業費用 3 万円

10) 教育出版費用 0 万円

- ・ 以前抜き刷り費用を別に計上していましたが現在は受取金額と相殺のため計上しません。

11) 周年事業費用 0 万円

- ・ 今期は計上いたしません。

12) オンライン特別支援金 0 万円

- ・ 今期は計上いたしません。

13) 中期活動計画調査費用

- ・ 中期活動計画具体化のための調査費用を 20 万円計上します。

2. 管理費用 総額 440 万円

1) ネットワーク運営費 50 万円

- ・ サーバ更新料、原稿提出用サーバの開発

2) 事務局通信費 25 万円

3) 事務局業務委託費 300 万円

4) 事務用品費 20 万円

5) 備品購入費 9 万円

6) 管理委託費 10 万円

- ・ システム運用費用として 10 万円を計上します。

7) 雑費 25 万円

- ・ 振込、自動引き落とし、各種発行手数料などの費用として 25 万円を計上します。

8) 予備費 1 万円

9) 租税公課 2 千円

以上

一般社団法人CIEC2021年度予算案

(単位:円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,000,000	
2) 団体会員会費収入	6,500,000	
	10,500,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	2,000	
	2,000	10,502,000
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	850,000	
2) 会誌発行費用	3,000,000	
3) 広報費用	140,000	
4) 研究会費用	400,000	
5) 調査費用	0	
6) 事業活動費用	200,000	
7) 支部活動援助金	610,000	
8) 部会活動援助金	670,000	
9) 学会表彰事業費用	30,000	
10) 教育出版費用	0	
11) 周年事業費用	0	
12) オンライン特別支援金	0	
13) 中期活動計画調査費用	200,000	
	6,100,000	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	500,000	
2) 事務局通信費	250,000	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	200,000	
5) 備品購入費	90,000	
6) 管理委託費	100,000	
7) 雑費	250,000	
8) 予備費	10,000	
9) 租税公課	2,000	
	4,402,000	10,502,000
3 財務費用	0	
1) 支払利息	0	
経常損失金		0

資料 1：専門委員会、部会、支部 2020 年度活動報告と 2021 年度活動方針

※敬称略にて作成しています。

会誌編集委員会

1. 2020 年度活動報告

- (1) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」49号（2020.12.1）を発行しました。
 - ・ INTERVIEW 「コロナ禍での学校教育と高等教育」
豊福晋平さん（国際大学グローバルコミュニケーションセンター・准教授）に聞く／寺尾敦編集長
 - ・ 特集「LCP（Learning Continuity Plan: 学習継続計画）をどのように実現するのか」：3本／特集担当編集委員：松下慶太委員
 - ・ 2020PC カンファレンス報告「産学共同で切り開くこれからの教育・学習」
 - ・ 研究論文1本／実践論文3本／実践報告2本／ソフトウェアレビュー1本／本の紹介※特集を除く一般投稿は10本で採択されたものは7本、採択率は70%でした。
- (2) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」50号（2021.6.1）を発行しました。
 - ・ INTERVIEW：「携帯端末とLMSを活用した深い学び」
永谷研一さん（株式会社ネットマン代表取締役社長）に聞く／寺尾敦委員長
 - ・ 特集「COVID-19 パンデミックと遠隔講義 我等ら（CIEC）斯く戦えり」：12本／特集担当編集委員：片平昌幸委員
 - ・ 実践論文6本／研究ノート2本／実践報告2本／ソフトウェアレビュー1本／本の紹介※特集を除く一般投稿は19本で採択されたものは11本、採択率は58%でした。
- (3) 会誌編集委員会を、以下の日程（会場）で開催しました。
 - 第80回：2020年8月2日（WEB会議システムによる遠隔会議）
 - 第81回：2020年10月18日（WEB会議システムによる遠隔会議）
 - 第82回：2021年3月27日（WEB会議システムによる遠隔会議）
- (4) 2020PC カンファレンスで会誌編集委員会企画セミナー「CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』に採択されるために－研究と論文の質をいかに高めるか－」パネリスト：横川博一（神戸大学）、松下慶太（関西大学）、鳴海智之（兵庫教育大学）、寺尾敦（青山学院大学）を開催しました。
- (5) オンライン投稿・査読システム Editorial Manager を導入し、49号から運用を開始しました。

2. 2021 年活動方針

- (1) 会誌『コンピュータ&エデュケーション』51号および52号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。
- (2) 本格運用を開始したオンライン投稿・査読システム Editorial Manager（会誌第49号（2020年3月20日受付開始、2020年12月発行）について、適宜検証を行い、必要に応じてシステムの改善を図ります。
- (3) 会誌編集委員会を年3回程度開催する予定です。
- (4) より質の高い論文等の投稿が増えるよう 2021PC カンファレンスで会誌編集委員会企画セミナーを開催します。「CIEC 会誌『コンピュータ&エデュケーション』に採択されるために：Dos and Don'ts」パネリスト：寺尾敦（青山学院大学）、村上正行（大阪大学）、片平昌幸（秋田大学）
- (5) 巻頭インタビューについては、これまでと同様に CIEC 団体会員をはじめ、団体会員外企業等にも積極的にインタビューを依頼し、CIEC への理解を深めることを目指します。また、会誌の特集に関連するテーマ・トピックも考慮しながら、各種ソフトウェア・システム等を有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていきます。

- (6) 学会賞選考委員会に会誌編集委員会として協力します。

広報・ウェブ委員会

1. 2020 年度活動報告

広報・ウェブ委員会は、CIEC の広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2020 年度は、当初に定めた 3 つ活動方針に従って、以下の活動を中心に行いました。

(1) オンラインイベント開催のサポート

2020 年度に本項目を活動方針の 1 つに加える契機になった春季カンファレンスのほか、各研究会や PC カンファレンスにおいてもオンラインでの開催が続きました。開催前の告知のほか、期間中の対応、今後の改善点の洗い出しなども含めて、各委員がそれぞれの担当ポジションでサポートを行いました。また、CIEC 公式サイトに対しては、告知ページに Zoom 関連の情報提示機能を追加するなど、現状の活動に合わせた改修を行いました。

(2) 学会内の業務インフラの効率化

Slack を活用して日々の業務を効率化することを目指し、まずは広報・ウェブ委員会内でのやりとりを原則 Slack のみで行うようにしました。加えて、Slack の活用指針を委員会内で協議、提案文書としてまとめて理事会で共有しました。チャンネルのメンバー管理やプライベートチャンネルへの移行なども、要請に応じて行いました。

また、事務局との日常的なやりとりや、サイト運営に関する関係者の相談の手段を、個人宛のメールやメーリングリストから新設した Slack チャンネルに移行させました。これは、やりとりが長く続くような内容の返信をスムーズにすることはもちろん、後任なども含め必要な人が後日いつでも確認できるログとして機能することを狙ったものです。

(3) 社会的なニーズを踏まえた広報活動

これまでのような研究会に加え、小中高部会主催の新たな枠組み「CIEC サタデーカフェ」についても、イベント告知のサポートを公式サイト、Twitter、Facebook などで行いました。8 月の PC カンファレンス関連の告知も引き続き追加していく予定です。Special 記事は、2021 年夏までに数本の「会長インタビュー」記事を新規掲載予定で、現在関係者との調整を進めています。

2. 2021 年度活動方針

引き続きサイト運営を中心とした定例業務に取り組んでいきますが、特に 2021 年度は以下のような方針を念頭に活動を行います。

(1) オンラインツールのさらなる活用による業務の効率化

2020 年度に本格導入した Slack ですが、一部のやりとりはメール等からの置き換えが進んだものの、業務効率化の到達度でいえばまだ道半ばです。やりとりされる文書も添付ファイル形式が多く、紙ベースでの習慣に引きずられている感が否めません。オンラインツールのより良い活用方法を模索しながら、引き続き関係者に働きかけていきます。

(2) 広報活動に関する関係者内外の認知度の向上

CIEC 公式サイトは、各委員会・部会・支部にそれぞれのページの編集および拡張の権限を持たせる形で設計されていますが、このことが関係者に十分に認知されておらず、それが積極的な情報発信の妨げになっている面があることがわかってきました。引き続き Special 記事等の追加や改訂で対外的な広報を進めるだけでなく、活動の認知度を高めたいと考えている会員自らが公式サイトを存分に活用してもらえよう、CIEC 内での関係者への働きかけや説明を強化していきます。

料 4 編が採択されました。U-18 発表論文は、審査の結果、17 編が採択となりました。

前年度との主な変更点として、（i）査読付論文採録者による講演セッションに加え、小中高生（U-18）による口頭発表セッションを設けた、（ii）当初よりオンライン開催としたためポスター発表は募集しないこととした、（iii）査読付論文のカテゴリーを一部変更し「論文」「速報論文」「資料」とした、（iv）2 日間開催とした、（v）表彰については「論文賞（査読付論文より選考）」「U-18 最優秀賞」「U-18 優秀賞」「U-18 奨励賞」「U-18 特別賞」とし、U-18 を対象とした賞を大幅に拡大した、（vi）査読期間・評価の観点を見直した、（vii）論文集は電子版のみを刊行することとした、等があげられます。

オンライン開催でしたが、発表者・参加者の皆さまのご協力のもと、両日とも非常に活発な質疑応答・議論が交わされ、大きなトラブルも無くスムーズにプログラムを進行できました。閉会式では、各賞の表彰がおこなわれ、受賞者の皆さまから喜びの声もいただきました。

CIEC 春季カンファレンス 2021 に関わっていただいたすべての皆さまに感謝申し上げます。

開催概要

日程：2021 年 3 月 21 日（土）、22 日（日）

会場：Zoom によるオンライン開催

発表件数：

- ・一般論文（査読付）発表：15 件
- ・U-18 論文発表：17 件

参加者：3 月 21 日（土）80 名、22 日（日）93 名

表彰：

◎論文賞：

- ・白土由佳（文教大学 情報学部 メディア表現学科）
「ソーシャルリスニングのフレームワーク SGUR(サグール)の提案と実践」

◎U-18 最優秀賞：

- ・江頭翔・福田紬杏・小川碧・島内結和（長崎県立長崎南高等学校）
「遅れが発生しにくい路線バス運行経路の検討」

◎U-18 優秀賞：

- ・伏谷健太郎・小川晃輝・佐々田遼斗（島根県立益田高等学校）
「火災時における最適な避難経路」
- ・岩村陸・岡田浩毅（早稲田大学高等学院中学部）
「Watson によるチャットボットの学習方法 - 質問の導入方法 -」

◎U-18 奨励賞：

- ・山口夏巳・池邊智也・西村悠生（兵庫県立小野高等学校）
「コミヤマスマイレの謎を追う - スマイレ属全体の分類の見直しへ -」
- ・土井将太・益田拓実・森川智哉（徳島県立脇町高等学校）
「ディープラーニングの精度とデータ量の関係」

◎U-18 特別賞：

- ・出口優人（東広島市立川上小学校）
「自分実験 - 書きに困難がある小学生が iPad で学習したらどうなるのか -」

2. 2021 年度活動方針

(1) 春季カンファレンスについて、以下の点を検討します。

- ・参加費、企業協賛等の収入見込みや経費の見直しにより、引き続き、収支の改善を図ります。

- ・電子システム活用等により、投稿や参加申し込みに関する事務処理の効率化を検討します。
 - ・講演会、情報交換会など、新企画の可能性を検討します。
- (2) 春季カンファレンスの他、CIEC で実施される各種研究会や研究交流会の企画・運営案などを確認・承認し、広報・ウェブ委員会と連携しながら Web や ML での周知拡大を目指します。
- (3) PC カンファレンスよりも先行してオンライン開催している春季カンファレンスの経験や運営ノウハウを、PC カンファレンスにおける新企画、分科会運営、論文賞選考等によって還元し、CIEC 全体のさらなる発展に寄与することを目指します。

小中高部会

1. 2020 年度活動報告

- (1) 2020PC カンファレンス（同志社大学→オンライン開催）において、シンポジウム 2 を運営

テーマ：検証「新型コロナ」休校！ そのとき学校はどう動いたか ―新たな学びの場の構築と充実―
パネリスト：斎藤勝（帝京平成大学）・平田義隆（京都女子高等学校）・吉田賢史（早稲田大学高等学院）
司会：武沢護（早稲田大学大学院・高等学院）

- (2) 研究会（小中高部会主催 2 回、共催 1 回実施）

① 第 123 回研究会

テーマ：「コロナ禍における学びの継続」について

開催日：2020 年 11 月 22 日（日） 14:00 - 16:00（Zoom によるオンライン開催）

パネリスト：高瀬敏樹（市立札幌旭丘高等学校）・能城茂雄（東京都立三鷹中等教育学校）
武沢護（早稲田大学高等学院）

② 第 124 回研究会（オープンエデュケーション部会共催）

テーマ：「オンライン教材における著作権の扱い」について

開催日：2021 年 1 月 05 日（火） 14:00 - 16:00（Zoom によるオンライン開催）

講演：芳賀高洋（岐阜聖徳学園大学）・江口悦弘（日経 BP PC メディア編集部編集長）

③ 第 125 回研究会（国際活動委員会主催 小中高部会共催）

テーマ：「求められる新教育スタイルとポストコロナへの展望―中国と日本の状況―」

開催日：2021 年 3 月 27 日（土） 14:00 - 16:30（Zoom によるオンライン開催）

講師：張海（中国・東北師範大学）・皆川雅章（札幌学院大学）・

張晶（中国・長春第三十中学校長）・紺谷正樹（北海道月形町立月形中学校）

- (3) CIEC サタデーカフェの開催及び運営

2021 年 4 月より原則毎月第 3 土曜日の 20:00～21:00 に開催

第 1 回：2021 年 4 月 17 日（土）20:00～21:00

テーマ：ICT 活用実践事例集「まなびの旅」の制作について

スピーカー：平田 義隆（京都女子中学校高等学校）

第 2 回：2021 年 5 月 15 日（土）20:00～21:00

テーマ：BYOD への長い道のり

スピーカー：吉田賢史（早稲田大学高等学院）

第 3 回：2021 年 6 月 19 日（土）20:00～21:00

スピーカー：高瀬敏樹（市立札幌旭丘高校）

- (4) その他

・CIEC 春季カンファレンス 2021（オンライン開催）小中高生参加協力

2. 2021 年度活動方針

- ・ GIGA スクールに関わる問題

これまで国が推進していた児童生徒 1 人 1 台端末計画（いわゆる GIGA スクール構想）がコロナ禍により早急に進められたのを受け、全国の小学校・中学校では 2021 年 4 月現在ほとんどの学校で 1 人 1 台配付が終了しているところである。しかし、現場ではインフラの整備や教員への研修などがなかなか進んでいない地域も多く、実際に手元に PC があっても活用できていないのが現実である。そういった現状を打破していくために、今後活用されるべき姿を議論する。

- ・ 著作権に関わる諸問題

コロナ禍により、学校教員の多くはオンライン授業やオンデマンド授業をしかたなく経験してきた。しかし、公衆送信に関わる著作権問題をきちんと理解していないことが原因で、間違った利用も多く見受けられる。小中高部会では、2020 年度にこの問題について研究会を行ったが、興味関心を示される参加者も多く、ニューノーマルな授業や講義の形としてのオンライン利用について理解を深めるためにも、著作権問題に関しては、継続して議論していきたいと考える。

- ・ 小学校プログラミング教育から大学入試共通テストへ情報科の採用に関わる問題

学習指導要領の改定により、小学校では 2020 年度からプログラミング教育が必修化された。高等学校では 2022 年度から普通教科「情報」の科目が「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」に再編され、プログラミング教育が盛り込まれる。さらに大学入試共通テストにおいて教科情報が導入される方向であり、高等学校現場では教育方法が大きく変化していくことが想像できる。

具体的な活動

(1) 研究会の実施（基本的には全てオンライン開催の予定）

- ・ GIGA スクールに関わる問題
- ・ オンライン教材における著作権の問題(2)
- ・ 小学校プログラミング教育から見る大学入試共通テスト情報導入への問題

(2) 2021PC カンファレンス（オンライン）への協力

(3) 北海道地区において、PC カンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施

(4) 世話人会の実施（年 3 回、関東・関西で開催予定）

(5) 国際活動委員会との連携

(6) 研究委員会との連携

(7) プロジェクトへの協力

外国語教育研究部会

休止中

生協職員部会

1. 2020 年度活動報告

(1) 研究会／企画

8 月 PC カンファレンス セミナー2

テーマ：「アフターコロナ、ウィズコロナの時代に大学生協は何ができるのか」

パネリスト：中野淳（日経 BP）、島津翔（日経 BP）、北村士朗（熊本大学 教授システム学研究センター）、
毎田伸一（全国大学生協連 専務理事）、矢間裕大（全国大学生協連 学生委員長・大阪大学

工学研究科博士前期課程）、内赤尊記（千葉大学生協同組合 専務理事）

司会：松葉哲史（法政大学生協同組合）

今回のセミナーでは下記の 3 つの内容について報告・議論した。

1) アフターコロナ・ウィズコロナの社会・経済の変化してきた中、大学はどのような変化（進化）をしていくのか。

2) アフターコロナ・ウィズコロナの中で大学生はどのように思い、学びを実施してきたのか。

3) アフターコロナ・ウィズコロナの中で大学生協は学生（組合員）の支援をどのように実施してきたのか。

大学と社会について「大学におけるキャンパスと会社におけるオフィス空間は人が出会うことによって起きる「偶然性・偶発性」を生み出す価値の場に相似性がある」と話され、また学生からはオンライン授業について、コミュニケーション不足が課題であると意見があった。生協としても、オンライン化はあくまで手段のひとつとして捉え、活動していくことの重要性が話された。オンライン化をすすめて学習者中心の講座になったときに、対面にしかできない価値—偶発的な人との出会いの場や大学や教員が教えられない学ぶ場を生協として提供していくことで、COVID-19 後も学びと支援事業の発展がのぞめるのではないかとといった議論が展開された。

(2) 世話人会（関東世話人会計 3 回実施）

2020/7/2、8/5 2020 年 PC カンファレンス打ち合わせ

2021/4/22 2021 年 PC カンファレンス打ち合わせ

2. 2021 年度活動方針

(1) アフターコロナ・ウィズコロナ時代のキャンパス内外の学び、学修環境の変容と学修者の変化を捉え、今後どのような学修支援を目指していくべきか研究する。

(2) 学生同士の学び合いや経験を継承する場づくりの研究、現状と変化について継続的調査を行う。

(3) 上記 (1) (2) の活動を通じて生協職員の CIEC 会員の増加につとめる。

オープン・エデュケーション研究部会

1. 2020 年度活動報告

オープン・エデュケーションは高等教育機関を中心に発展し、代表的なものとしては MOOCs や各大学が展開している OCW (Open Course Ware) が有名であるが、CIEC でもここ数年、オープン・エデュケーションに関するグローバル活動の一環として MELROT プロジェクトに参画してきました。本部会ではワークショップ・研究会・北米視察等を通じて会員にオープン・エデュケーションに関する情報等を提供・共有していくことを目的に活動しました。

(1) PC カンファレンスシンポジウム

「検証 新型コロナ」休校！そのとき学校はどう動いたか—新たな学びの場の構築と充実—

(2) 研究会の実施

CIEC 第 124 回研究会

開催概要

「オンライン教材における著作権の扱い」について

開催日：2021 年 1 月 5 日 (火)

実施形式：Zoom ミーティング

講演 (1)：授業目的公衆送信補償金制度創設の経緯 江口悦弘氏（日経 BP PC メディア編集部編集長）

講演 (2)：オンライン授業と著作権 芳賀高洋氏（岐阜聖徳学園大学）

2. 2021 年度活動方針

なし

北海道支部

1. 2020 年度活動報告

(1) 「PC カンファレンス北海道 2020」の開催

【開催概要】

テーマ：Beyond the Border ～ 新しい学びのスタイルへ ～

開催形態：オンライン <https://ciec.hokkaido.jp/>

開催期日：2020 年 11 月 23 日(月)～11 月 28 日(土)

・オンデマンドビデオ分科会発表 … 11 月 23 日(月)～11 月 28 日(土)

・パネルディスカッション、分科会質疑応答 … 11 月 28 日(土)13:00～17:00

主催：PC カンファレンス北海道 2020 実行委員会

共催：CIEC コンピュータ利用教育学会・全国大学生協連合会北海道ブロック

司会：小野真嗣（室蘭工業大学）

参加者数：70 名

参加料：無料 ※論文集 1,000 円

【プログラム】

13:00 - 13:10 開会式

13:10 - 15:00 パネルディスカッション（Zoom ウェビナー）

15:00 - 16:55 分科会質疑応答（Zoom ミーティング）

17:10 - 17:15 プレゼンテーションスキル賞発表

テーマ：「新型コロナへの道内大学の対応と新たな講義スタイル」

パネリスト：桑田喜隆先生（室蘭工業大学）、重田勝介先生（北海道大学）、皆川雅章先生（札幌学院大学）

※50 音順

コーディネーター：森夏節先生（酪農学園大学）

例年 PC カンファレンス北海道は、札幌市内及び近郊と、道内各地の大学を交互に会場として開催してきました。本年度は、コロナ禍の未終息を想定し 4 月のオンライン世話人会にてカンファレンスのオンライン開催を決定しました。その後は主に Zoom によるオンライン会議と Slack で準備を進め、一度も対面の会議を行わずに開催に至りました。従前より北海道支部の世話会会は対面とオンラインを併用してきたため特に支障はありませんでした。また、通常のコミュニケーションの手段を、メーリングリストから Slack へ移行したことは、リアルタイムでのコミュニケーションが円滑に行えるなどメリットは大きかったと思います。

オンデマンドビデオ分科会発表は、11 月 23 日(月)～11 月 28 日(土)に、PC カンファレンス北海道 2020 特設 Moodle サイト (<https://ciec.hokkaido.jp>) で、参加登録者のみアクセスできるようセキュアな環境で行ないました。発表件数は 20 件で学生の発表も目立ちました。開催期間中、Moodle 上でも活発な質疑応答が行われました。

11 月 28 日には、パネルディスカッションを Zoom のビデオウェビナー形式で開催したところ、登壇者も含め、40 名程の参加がありました。

学生プレゼンテーションスキル賞優秀賞受賞者は、西島花音さん（公立千歳科学技術大学）「教育教材と教育補助教材に関するデジタル漫画の構造的差異の考察」でした。

IT フェア（企業展示）に行えませんでした。3 社から協賛があり、バナー広告を Moodle サイトに掲載すると共に、論文集に広告を掲載しました。

(2) 大学入学生を対象にしたコンピュータに関する調査

COVID-19 の影響により規模を縮小したものの、データを継続的に収集しフィードバックを行っており、情報教育担当者の共通基盤として有効活動されています。

2. 2021 年度活動方針

(1) PC カンファレンス北海道 2021 の開催

昨年に引き続きオンラインにて開催予定。テーマ、開催期日等未定です。

(2) 支部研究会の開催

時期、会場は未定ですが、研究会の開催を予定しています。

(3) 北海道における情報教育に関する調査の実施

引き続き北海道の大学 1 年生を対象にした調査を計画しています。

九州支部

1. 2020 年度活動報告

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症への対応のため、九州 PC カンファレンスの開催を中止した。ICT を活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとする情報生活サポート研究会により、教員、学生、生協職員の交流の多様化および対面での交流が困難な事態への対応力の向上を目指し、Slack のワークスペースを立ち上げて気軽に討論できる環境を整えた。この CIEC 九州支部の Slack の利用環境を整備したのは板倉前代表であり、2020 年度末の支部代表退任以降も顧問として引き続き支部をサポート頂くことになっている。

2. 2021 年度活動方針

九州 PC カンファレンスは、教員、学生、生協職員が共に学び、成長する場であり、ICT 教育や情報化社会について学ぶ場としてだけではなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、さまざまな学びの場と捉えている。2021 年度は、2019 年度に佐賀大学で開催された九州 PCC での IT フェア(38 社が出展)を最後にしないためにも、九州 PCC を再開催するとともに新しい形での IT フェアの実施を検討する。開催する九州 PCC の準備についての議論は Slack を利用することになるが、会員生協の専務、職員、教職員委員会の委員長、副委員長は参加済みである。情報生活サポート研究会では、ICT を活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとして研究活動が継続されるが、教員、生協職員、学生の協同の中で、新しい時代における大学生協の役割を確かなものにする九州の大学生協と CIEC 九州支部（知の協同組織）が一体となった活動を推進するために、Slack を用いた会員交流機会による支援方法等を模索する。

資料 2 : CIEC 活動報告スケジュール

2020 年 7 月

- 1 日 (水) 2020 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 開催公示
 19 日 (日) 監事会 (大学生協杉並会館)
 28 日 (火) 選挙管理委員会(オンライン)

2020 年 8 月

- 2 日 (日) 会誌編集委員会 (オンライン)
 17 日 (月) 2019 年度第 4 回理事会 (オンライン)
 18 日 (火) 2020PC カンファレンス (オンライン)
 テーマ「産学共同で切り開くこれからの教育・学習」
 19 日 (水) 2020PC カンファレンス (オンライン)
 2020 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会(大学生協会館)
 2020 年度第 1 回理事会 (オンライン)
 20 日 (木) 2020PC カンファレンス (オンライン)

2020 年 9 月

- 8 日 (火) 第 1 回定例三役会議(オンライン)
 30 日 (水) 会誌 Vol49 インタビュー (豊福晋平氏)

2020 年 10 月

- 6 日 (火) 第 2 回定例三役会議(オンライン)
 18 日 (日) 会誌編集委員会 (オンライン)
 24 日 (土) 研究委員会 (オンライン)
 27 日 (火) 第 3 回定例三役会議(オンライン)

2020 年 11 月

- 8 日 (日) 第 4 回定例三役会議 (大学生協会館)
 2020 年度第 2 回理事会 (オンライン)
 22 日 (日) 123 回研究会 (小中高部会主催)
 テーマ「「コロナ禍における学びの継続」について」(オンライン)
 23 日 (月)～28 日 (土)
 「P C カンファレンス北海道 2020」

2020 年 12 月

- 1 日 (火) 『コンピュータ&エデュケーション Vol. 49』発行
 8 日 (火) 第 5 回定例三役会議(オンライン)
 13 日 (日) 研究委員会 (オンライン)

2021 年 1 月

- 5(日) CIEC 第 124 回研究会 (小中高部会、オープン・エデュケーション研究部会企画)
テーマ「オンライン教材における著作権の扱い」について」(オンライン)
- 12 日 (火) 第 6 回定例三役会議(オンライン)
- 24 日 (日) 2021PC カンファレンス第 1 回実行委員会 (オンライン)
- 28 日 (木) 第 7 回定例三役会議(オンライン)

2021 年 2 月

- 22 日 (月) 中期活動計画理事懇談会(オンライン)
- 28 日 (日) 2021PC カンファレンス第 2 回実行委員会 (オンライン)

2021 年 3 月

- 2 日 (火) 第 8 回定例三役会議(オンライン)
- 7 日 (日) 20 年度第 3 回理事会 (オンライン)
- 9 日 (火) 会誌 Vol. 50 インタビュー (永谷研一氏)
- 16 日 (火) 2021 P C カンファレンス公式サイトオープン
- 20 日 (土) 春季カンファレンス (オンライン)
- 21 日 (日) 春季カンファレンス (オンライン)
- 27 日 (土) 会誌編集委員会 (オンライン)
- CIEC 第 125 回研究会 (国際活動委員会主催、小中高部会共催)
テーマ「求められる新教育スタイルとポストコロナへの展望ー中国と日本の状況ー」
- 28 日 (日) 2021PC カンファレンス第 3 回実行委員会 (オンライン)

2021 年 4 月

- 1 日 (木) 2021PC カンファレンス論文投稿受付開始 (4 月 30 日締切)
2021PC カンファレンスイブニングセッション受付開始 (4 月 30 日締切)
CIEC 学会賞公募開始 (4 月 30 日締切)
- 9 日 (金) 第 9 回定例三役会議(オンライン)
- 14 日 (水) 中期活動計画 (案) メンバーズコメント募集開始 (5 月 19 日締切)
- 17 日 (土) 小中高部会「第 1 回サタデーカフェ」
- 26 日 (月) 中期活動計画 (案) 懇談会 (オンライン)

2021 年 5 月

- 9 日 (日) 2021 P C カンファレンス第 4 回実行委員会
2021 P C カンファレンス時間割編成会議
- 11 日 (火) 第 10 回定例三役会議(オンライン)
- 15 日 (土) 小中高部会「第 2 回サタデーカフェ」
- 17 日 (月) 中期活動計画 (案) 懇談会 (オンライン)

2021 年 6 月

- 1 日 (火) 『コンピュータ&エデュケーション Vol. 50』発行
 2021 P Cカンファレンス参加申し込み開始 (7 月 31 日締切)
 第 11 回定例三役会議(オンライン)
- 6 日 (日) 20 年度第 4 回理事会 (オンライン)
- 19 日 (土) 小中高部会「第 3 回サタデーカフェ」